


2003.11 文楽 BUNRAKU ユネスコ無形文化遺産 Intangible Cultural Heritage

文化庁

主催 公益財団法人文楽協会

助成 文化庁文化芸術振興費補助金(舞台芸術等総合支援事業(公演創造活動))｜独立行政法人日本芸術文化振興会／朝日新聞文化財団

## 2027年3月 地方公演チケットお問い合わせ先

3月10日(水)戸畑市民会館(福岡県北九州市)
[チケット問い合わせ:J:COM北九州劇場]……093-562-2655
12日(金)宇都宮市文化会館(栃木県宇都宮市)……028-634-6244
13日(土)府中の森芸術劇場(東京都府中市)……042-333-9999
3月14日(日) 高崎芸術劇場スタジオシアター(群馬県高崎市)……027-321-3900
20日(土) あましんアルカイックホール・オクト(兵庫県尼崎市)……06-6487-0910
21日(日)・22日(月・祝) 京都府立文化芸術会館(京都府京都市)……075-222-1046
【22日は上演順を入替】

主催　公益財団法人　文楽協会

# 二〇二七年三月地方公演 配役表

## 昼の部

**解説**（あらすじを中心に）　豊竹靖太夫

### 摂州合邦辻
合邦住家の段

中　竹本咲寿太夫　鶴澤清旭
前　豊竹靖太夫　豊澤富助
後　竹本織太夫　野澤勝平

（人形役割）
合邦道心　吉田玉男
合邦女房桐竹紋秀
玉手御前　吉田和生
奴入平　吉田玉誉
浅香姫桐竹紋臣
高安俊徳丸　吉田玉勢
講中大ぜい

### 五条橋

牛若丸　竹本南都太夫
弁慶　竹本織栄太夫
竹本織部太夫
鶴澤清丈
野澤錦吾
鶴澤燕二郎

（人形役割）
牛若丸桐竹紋吉
弁慶　吉田玉彦
囃子　望月太明藏社中

## 夜の部

**解説**（あらすじを中心に）　竹本織栄太夫

### 桂川連理柵
初演二五〇年
六角堂の段

豊竹靖太夫　女房お絹　吉田簑二郎
鶴澤清丈　弟儀兵衛　吉田玉也
丁稚長吉　吉田玉翔
母おとせ　吉田勘市
親繁斎　吉田佳助
帯屋長右衛門　吉田玉助
娘お半　吉田輔一
下男大ぜい

帯屋の段

前　豊竹睦太夫　竹澤團七
後　豊竹藤太夫　鶴澤燕三

道行朧の桂川

お半　豊竹芳穂太夫
長右衛門　竹本咲寿太夫
竹本織栄太夫
野澤錦糸
竹澤團吾
鶴澤清允

（人形役割）
帯屋長右衛門　吉田玉助
娘お半　吉田一輔
囃子　望月太明藏社中

※字幕表記がございます。席によっては見えにくい場合もございますので、あらかじめご了承下さい。
※出演者の急病や止むを得ない際に、代役または狂言を変更して上演する場合がございます。あらかじめご了承下さい。
※観劇時は咳エチケットの励行ならびに手洗いなどの感染症対策にご協力のほどお願い申し上げます。
※開演中、場内での写真撮影・録画録音ならびに携帯電話・スマートフォン・タブレット等の使用は固くお断りいたします。また周りのお客様の観劇の妨げになりますので、上演中はお持ちの携帯電話・スマートフォン・スマートウォッチは音・光・振動が出ないように設定をお願いいたします。

## 摂州合邦辻　合邦住家の段

継母が恋したのは継子―。

河内国高安家の跡継ぎは俊徳丸。この決定に不満を抱く妾腹の兄は、家督を奪おうと、俊徳丸暗殺を計画。ところが、俊徳丸は、突如病気となり、また継母玉手の邪恋から逃れるため、家督を継ぐことなく失踪。

あとを追う玉手。けれども、行方を探しあぐね、四天王寺のそばに住む両親のもとへ。そこには偶然、俊徳丸と許婚の浅香姫が匿われていました。

玉手は、姫から俊徳丸を奪おうと、嫉妬もあらわに大暴れ。いくらいとしい娘でも許しがたい非道に、父合邦は激怒し、玉手を刺殺。ところが、死を前に玉手が明かしたのは思いもよらない真実―人の道にはずれた恋も、突然の病も、俊徳丸を暗殺から守る手段だったとは？

題材は、念仏信仰の地、四天王寺（大阪市）での救いを描く説経『しんとく丸』や能『弱法師』で、合邦辻は、四天王寺の近くの丁字路の名称です。

安永2年（1773）、豊竹此吉座が大坂の北堀江市の側芝居で初演。菅専助・若竹笛躬合作の上下二巻の時代物で、下の巻から、合邦や玉手の激しい心情に圧倒される「合邦住家」をご覧いただきます。

## 五条橋

源義経といえば武蔵坊弁慶、その出会いは―。

義経がまだ牛若丸と名のっていたころ、亡父追善のための千人斬りと称して、毎夜、京都の鴨川にかかる五条橋で人を襲撃。千人目というこの日、大薙刀を持ち、熊手、鉄棒、まさかり等々七つ道具を背負って、曲者退治にやって来たのが、弁慶。

華奢な少年牛若丸と力自慢の大男弁慶との戦い。俊敏な牛若丸に、さすがの弁慶も翻弄され、降参、喜んで家来に。

享保16年（1731）、大坂の竹本座で初演された、文耕堂・長谷川千四合作の五段の時代物『鬼一法眼三略巻』。その五段目の一部で、わかりやすく楽しい作品です。

## 桂川連理柵　六角堂の段・帯屋の段・道行朧の桂川

妻もいる38歳の男が隣家の14歳の娘と心中―。

ことの起こりは、二人が旅先で偶然出会い、同じ宿に泊まったこと。深夜、供の丁稚に言い寄られたお半は、助けを求めて長右衛門のもとへ。日頃から何かとお半の面倒を見ている長右衛門は、ここで寝たい、眠たいと訴えるお半を何の気もなしに蒲団へ入れてやり、思いもしなかった間違いが…。

長右衛門にとってお半の亡父は大恩人。その臨終に、親代わりとなって将来お半に幸せな結婚をと頼まれた身で犯してしまった、恩人を裏切る過ちに、苦悩する長右衛門。一方、幼いときから長右衛門にかわいがられ、恋心を抱いていたお半は、決して叶わぬ恋と、長右衛門の子を宿したことに悩む日々。

さて、そんな中、悪事を企むのが、長右衛門の養父の後妻とその実子。お半との関係を言い立て、盗みの罪をなすりつけて、長右衛門を追い出す魂胆。親子の責めにひたすら耐える長右衛門を救ったのは、妻と養父でした。

長右衛門の苦悩を察し、自害を恐れる二人。親より先に死んでくれるな、いつまでも夫婦でいたい…。二人の思いを聞く長右衛門の胸は張り裂けんばかり。実はすでに死を覚悟していました。取り返しのつかないお半の妊娠、そして、今日降ってわいた難題。どちらも死をもって償うよりほかありません。

お半もまた死ぬ覚悟。長右衛門に書置きを残し、桂川へ。お半を一人で死なせまいと、あとを追う長右衛門。こうして二人は、一緒に死ぬことに…。

1761年、京都の桂川で見つかった親子ほど年の離れた男女の遺体。すぐに心中事件として浄瑠璃にとりこまれましたが、江戸時代の記録では強盗殺人とされています。

ご覧いただくのは、安永5年（1776）、大坂の北堀江市の側芝居で豊竹此吉座が初演した、菅専助の上下二巻の世話物の下の巻（道行は後補）。六角堂（頂法寺・京都市）近くの商家を舞台とした眼目の「帯屋」では、チャリ場（笑いの場）もお楽しみください。